

みんゆう 随想

羊蹄山と幌尻岳は次回の楽しみに北海道編はひとまずフィナーレとし、未登である本州の百名山を再開し武尊山を目指しました。

業務上のトラブルや携帯忘れて、夕方2時間遅れの出発となり、武尊高原川場キャンプ場付近の登山口駐車場に向かいました。

人氣が薄いか登山者は無く、普段より軽装で8月2日午前5時スタート。高手新道コースを単独で快適に飛ばし、キャンプ場やサバイバル遊戯場を過ぎると、懐かしく、哀愁が漂い、山奥には部落の神体が在

渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング
代表取締役



りそんな山道を登っている 約1時間で高手山に到着 止まらず、短い休憩でピス
ことに気がきました。 し、周辺を見渡すと洞窟は トン下山を開始しました。

危険箇所以外では、時間 無いものの高木の根元に小 異常気象に気付いたの
軸に関係なく諸事を思い出 さいお社があり、ここで小 は、0・5秒の水を早いペ
したり、考えたりしながら 休止し3・11の追悼と変な ースで飲みきり、予備のペ
孤独や苦しさ耐え頂上を 物語を想像したことに恥じ ットボトルのお茶を飲み始
目指しますが、今日は何故 て手を合わせました。 めたころ。我慢しきれず水

か何時もと異なり、本来な 徐々にギツイ登りに変わ は一滴も無くなり、山旅の
ら想像付かないことを脳裏 り西峰に到着し、広いベン 爽快さと軽快な体調は失わ
れ、やがて登山道の目立つ

山に魅せられて 8

で物語はじめました。 子を独り占めに、目指す山 の日射病の体験でした。

『90歳を超すすっかり軽 頂と雄大な下界を一望に朝 夢の中で『姨捨山に置き
くなった母親をおんぶして 食を取りました。 去りにした母親は居ない。

自宅を後に裏山から七曲が 岩場でアップ・ダウンの 母は密かに所持していた携
りを通して、どんどん奥へ 剣ヶ峰を無事通過して、最 帯と、孫のGPSを利用し、
入ると、小さいお社と洞窟 後のガレ場の急登を気力で 一つの間に家に戻り美味
があり、ここに母親を置き、 登り切って万歳。 しいものを食べているが、

自分が入ってはいけなない神 賑わう頂上だが、疎らで 自分は奥地に入り込んで道
秘的な場所へと懺悔のため 話は弾まない。2千級級の に迷い、天気が崩れ帰れな
吸い込まれていく…』 山なのに温度は上昇し汗が く遭難してしまう…』。